



道の駅よこはまエリア地方創生拠点形成 取組状況

資料 2



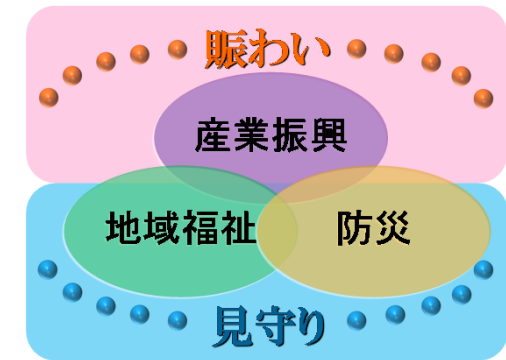
平成29年3月14日
横浜町・青森県

道の駅よこはまエリア
地方創生拠点完成イメージ

道の駅「よこはま」エリア地方創生基本計画

- 道の駅「よこはま」を含む周辺エリアを地域資源として捉え、“**賑わい**”と“**見守り**”を基本コンセプトとする「**産業振興**」+「**地域福祉**」+「**防災**」の3機能を有する「**地方創生拠点の形成**」を目指す。
- 横浜ICと道の駅「よこはま」エリアとの連携**により、**下北半島縦貫道路の休憩・情報施設**としての活用を図る。

※道の駅「よこはま」エリア・・・小中学校やガソリンスタンド、コンビニエンスストアなどの施設が集積する道の駅を含めたエリア。既存施設の有効活用が可能。



“賑わい”と“見守り”を基本コンセプトとして、3機能を有する「地方創生拠点」の形成

賑わい

産業振興「道の駅」 ⇒ 交流人口の拡大・地域経済の活性化

- ① 地域間や産官学と連携した観光企画の強化
- ② 買物や休憩、憩いで賑わう空間づくり
- ③ 地域の特産品によるオリジナル商品開発・ブランド化
- ④ 集荷サービス等による直売所の充実



見守り

地域福祉「道の駅」 ⇒ 安全・安心な住民サービスの提供

- ⑤ 高齢者など住民への宅配サービス
 - ⑥ 道の駅への送迎サービス
- 【集荷・宅配サービスと同時に見守り・声かけの効果も】



防災「道の駅」 ⇒ 地域防災力の強化（広域防災の後方支援）

- ⑦ 災害時の受け入れ体制づくり
- ⑧ 防災訓練やPR活動を通じた住民の防災意識の醸成



地方創生拠点の実現へ向けて

道の駅よこはまエリア事業推進協議会、ワーキンググループを設置



施策の運営方法、体制などをアイデア出し



基本計画に掲載されているソフト施策の実現に向け、関係者間で広く意見交換を行い、実行性のある事業計画を検討・協議する「道の駅よこはまエリア事業推進協議会」を設立し、今年度は3回協議会を開催（本日含む）

- 「横浜町をなんとかしたい！！」という情熱を持った人たちで構成
- 事業計画などのアイデアを出し、それを協議会で検討・協議
- 今年度は、野菜等集荷サービス、総菜等宅配サービスなどについて、3回ワーキングを開催

道の駅でインターンシップを実施



- 平成28年9月12日～21日の10日間、弘前大学生2名を道の駅で受入
- 道の駅の働きながら、道の駅で抱える課題を分析し、それに対する解決策を提案
- 産直所の販売を分析し、売れてる野菜などを提供

道の駅サポート集団「ぐるっと隊」が発足



- 「ぐるっと隊」が12月1日に発足
- 農家を回り売れ筋野菜の情報提供や集荷サービスにニーズ調査
- 道の駅の送迎バスに乗車し、送迎バスのPRやニーズ調査
- よこはま温泉や町役場で道の駅の商品を販売

施策① 観光企画の強化

取組の方向性

駐車場の拡張により大型車両が立ち寄りやすくなる契機を活かし、観光客や来訪者を増やす企画提案や受け入れ体制づくりを行う。

計画の内容

- 観光ルート、観光企画の提案
- 産官学と連携した観光素材発掘（横浜町ファンづくり）
- 受け入れ体制の充実
- レストランの魅力アップのために加工グループとコラボ



今年度の取り組み

○観光ルート、観光企画の提案

- プラットフォームの開設
- 菜の花の時期、周遊観光ルートへ追加



▲今年度立ち上げたHP

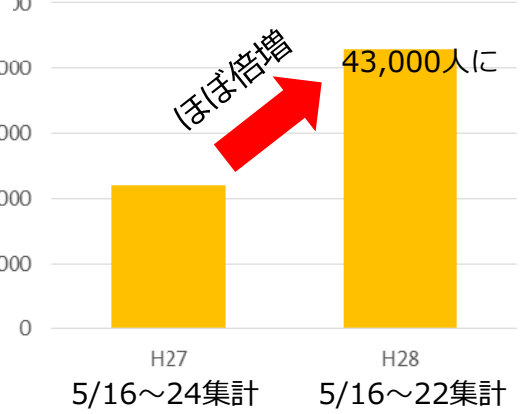
▲ぐるりんしもきた号パンフ

▲周遊観光ルートに設定

5月のGWから6月上旬限定で、菜の花コースを運行

今年は、今までにない規模の菜の花大迷路のため、また周遊観光ルートに組み込まれたため、入込客数が倍増。春先には、食べる観光として「菜花摘み体験」を。

▼菜の花フェスティバルの入込客数



○受け入れ体制の充実

おいらせ町にある(株)Jサポートから講師を招き、道の駅において、接客研修を実施



道の駅スタッフ15名が参加し接客研修を実施

笑顔での接客、マジックフレーズ、インバウンド対応を学び、即、実践!!

今後の取り組み予定

- 2017菜の花フェスティバルと青函キャンペーン
函館キャラバン隊3/27出発 観光協会、菜の花サポーター、函館PR
- しもきたTABIあすしと連携し下北広域観光、下北スタイルを創る
- 丸ごと横浜町素材(ホタテ・長芋・馬鈴薯・なまこ等)料理創作
- インターンシップと連携して、食・見・農・漁の体験型観光摸索

施策② 買物や休憩、憩いで賑わう空間づくり

取組の方向性

道の駅と三保野公園、交流館を活用し、ゆっくりと滞在できる環境を整備し、道路利用者や地域の方々が賑う空間を創出する。

計画の内容

- 三保野公園や交流館の利活用
- 高齢者をはじめ来訪者が休憩できる空間づくり
- イベントや催事などの企画の充実
- レストランの魅力アップ【再掲】



今年度の取り組み

○イベントや催事などの企画の充実

2月より、道の駅で、加工団体が交代で毎月イベントを開催

今年度、実施されたイベント

開催日	2月1日～2月13日	2月26日	3月12日
イベント名	バレンタイン ～義理も告白もあなたの代わりにてづくりチョコ～	ひなまつり ～桃の節句をお祝いしましょう～	稚貝の大袋販売
イベント概要	チョコチップマフィンやブラウニー、米粉のハートクッキーなど手作りの商品を多数販売	ひなまつり限定 揚げもち、さくら餅販売 ぬり絵体験（3/3まで直売所に展示） ひなまつりの手芸品の展示、販売	通常1k販売を、2kの特別販売 稚貝の味噌汁の販売（先着30杯）



▲バレンタインイベントの様子

▲ツイッターによる告知の様子

イベントは、全世帯に配布される広報誌に挟み込んだり、道の駅のレジでのチラシ配布、道の駅HPやツイッターで告知

H29年度の取り組み予定

- イベントや催事などの企画の充実（毎月イベントを展開）
- 三保野公園や交流館の利活用（知ってもらおう取組を展開）
- 高齢者をはじめ来訪者が休憩できる空間づくり（町民の皆様と一緒に空間づくりを推進）

取組の方向性

・これまでの開発した商品のPR活用と、専門家や地域と連携した「地元の食材を活かした商品開発・ブランド化」を推進する。

計画の内容

- ・魅力ある商品開発（6次産業化の強化）
- ・PRや売り場の工夫・改善



今年度の取り組み

○魅力ある商品開発（6次産業化の強化）

- ・商品ラベルを刷新
- ・野菜乾燥機を購入し、乾燥野菜の販売を開始
- ・ほたて焼き（新商品）を下北ブランド研究所に相談しながら開発

PRや売り場の工夫・改善

- ・商品の紹介方法を改善 魅力ある商品づくりに勉強会を
- ・道の駅の売り場にお買い物カートを3台設置



販売されている商品に統一感がな
いため、ラベルを刷新



町助成金で遠赤外線乾燥機、粉碎
機購入、カット野菜や粉にして次
の加工品開発に意気込む



一年中、変化のない店内だったの
を、季節ごとに彩りを。
月ペースの小イベントで集客増
を。3/12ホタテ販売、大盛況!!



道の駅までの送迎サービスを利用
者から、商品を持ちながら店内を
回るのが大変なのでカートが欲し
いと要望により設置



たこ焼き風ホタテ焼き試作

商工会女性部

- ・地域資源を活用した特産品開発に挑戦、「来て、買ってもらえる商品」開発を目指して、レシピ募集、試作会、試食・アンケート調査実施
- ・たこ焼き風ホタテ焼き、長芋だんご、コロッケ三姉妹等試作、下北ブランド研究所の支援も受けて来年度には販売を目指すまでに

H29年度の取り組み予定

下北縦貫道路延伸により、街中への人の流れが変わることから横浜町特産品の商品開発を本気で目指す

- ・全国町村会主催の物産展「町イチ村イチ」、函館グルメサーカスなどに積極的に出店してPR・販売する

施策④ 直売所の充実（地産地消）

取組の方向性

道の駅の目玉「産直」の扱う品目と品揃えを充実し、来客数増加と地域産業の活性化を図る。

計画の内容

- 売り場の工夫・改善【再掲】
- 集荷サービスの提供



今年度の取り組み

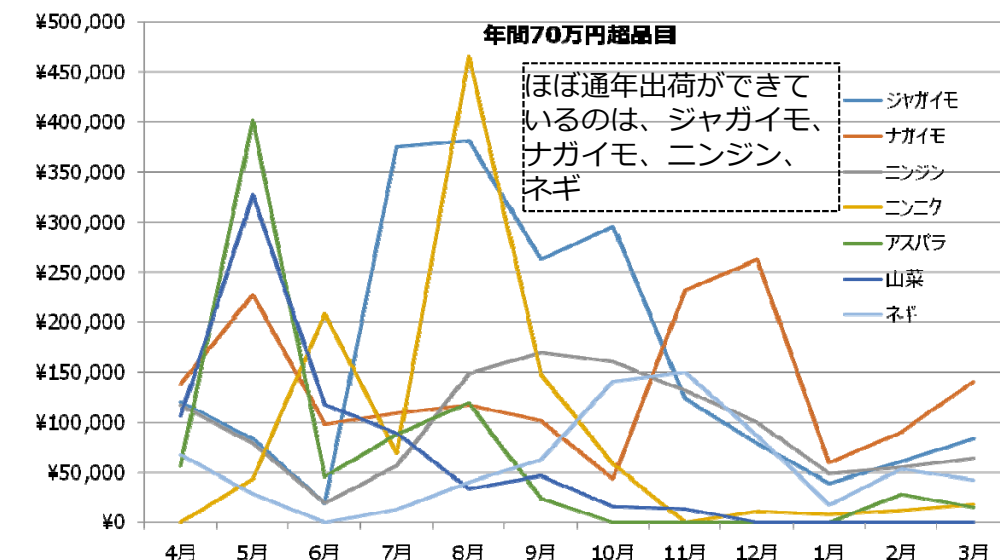
○売り場の工夫・改善【再掲】

- 産直・野菜の勉強会実施（農業普及室を招いて）
- ぐるっと隊による農家への売れ行き好調野菜の情報提供
- 道の駅スタッフも商品知識をインプット、お客さまからの声を生産者に情報提供して、常にPDCAを意識して



▲勉強会の様子

- 認知度の高い野菜を揃えた方がよい
- お客の希望をすぐ取り上げることが重要
- 産直のターゲットをどこに置くのか重要（地元？観光客？）
- 可能であれば計画的生産する（品薄状態の回避）



ジャガイモ、ナガイモ、ニンジンなどは保存することで、ニンニクなどは加工品（クロニンニク等）を強化することで売上落込み月をなくすこと、冬の総売り上げの底上げが可能！

▲平井准教授からの情報提供

※産直の売れ筋野菜第一は「馬鈴薯」、美味しい！

○集荷サービスの提供

- 野菜集荷のニーズ、サービス料金の調査を実施
- 野菜栽培技術や農薬について勉強会3回実施



野菜農家周りして、年間野菜栽培の現状把握と道の駅野菜販売データ情報を提供して売れ筋野菜の紹介して、儲かる産直への出荷をお願いした。

農家さんも高齢化が進み、道の駅の出荷サービスのニーズは高い。

H29年度の取り組み予定

- 売り場の工夫・改善 野菜の品揃え、補充の徹底
- 集荷サービスの提供 野菜農家の出荷者にコンテナ提供

施策⑤ 高齢者など住民への宅配サービス

取組の方向性

一定のニーズがあり、今後も増加が見込まれることから、既存サービスとの棲み分けや連携を考えながら、実証実験で導入を検討する。

計画の内容

- 宅配サービスの提供
- 宅配サービス先の拡充調査



今年度の取り組み

○宅配サービスの提供

- 道の駅にある商品（商品カタログ記載）を宅配（無料）
- 温泉や役場ロビーで移動販売を実施（無料）
- 道の駅で購入した重い荷物を自宅まで配達（無料）
- サービス料などについて、利用者へアンケートを実施



▲役場ロビーでの移動販売の様子

※コメント

- 月・火・水・金は温泉で、木は役場で移動販売を実施
- 野菜や惣菜を販売
- 温泉では温泉利用客の高齢者がおにぎりなどを購入
- 役場では、職員のほか周辺住民が菜の花ドーナツ、煮卵などを購入
- 温泉で購入したものを自宅まで配達するサービスも実施



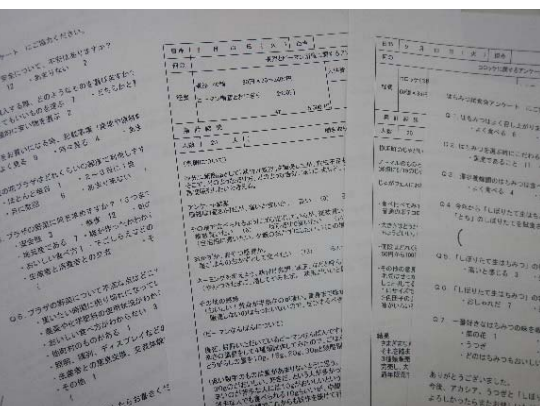
パンフレットのメニューからお弁当・パンなど電話注文し、商品をぐるっと隊が自宅まで配達。12月～2月末までに80万円の利用実績有り。特に惣菜、パン類が売れ筋

H29年度の取り組み予定

- 宅配サービスの提供:冬期間は観光客が少ないことから売り上げが伸び悩み、また、町内でお店屋が無い地域もあり見て買い物できる移動販売や皆が集まるサロン(集会場等)の創出

アンケート調査

蜂蜜試食会…蜂蜜商品が10点以上に
 コロッケ調査…毛豆、カレー味で提供
 煮卵・南蛮調査…煮卵、3ヶ月で300個
 ※色々な加工グループと一緒に調査・試食会実施で新たな商品、食べ方誕生



施策⑥ 道の駅への送迎サービス

取組の方向性

高齢者のニーズが高く、手にとって商品を選び・楽しみたいという声も多いことから、類似サービスや競合店舗と共存できる送迎サービスを構築。

計画の内容

- 送迎サービスの提供（高齢者への声かけ、見守りサービス含む）

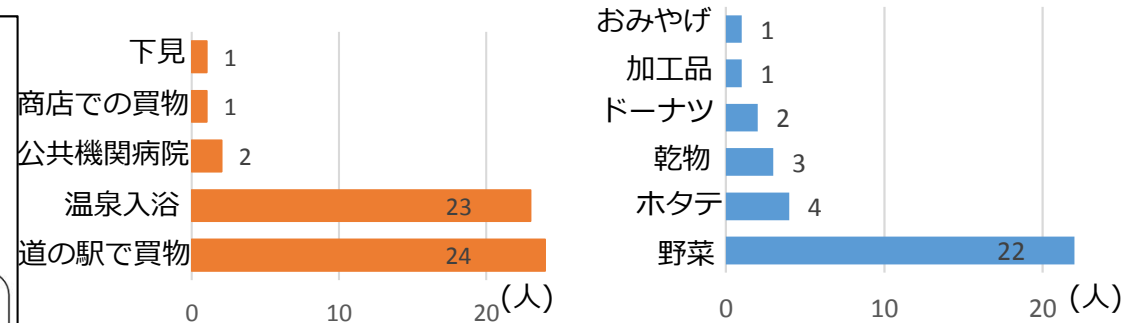


今年度の取り組み

○送迎サービスの提供

- 温泉&お買い物バスを金曜日限定の隔週で10月～12月まで試験運行

□利用者へのアンケート結果（10月の利用者28名）



▲温泉&お買い物バスの利用目的

▲道の駅で買った物



自由意見

- すごく便利。春になったら再開して欲しい
- 野菜がもっと多くあれば
- カートがあればいい
- 買った物を持って帰るのが大変
- 見て買い物出来るのがいい
- レストランも利用してみたい

▲送迎サービスの利用者

H29年度の取り組み予定

送迎サービスの提供（4月から本格的運行開始）

- これまで運行していたふれあいセンターの送迎バスを公共施設近くに停留所を設け、用事済ませたり買い物ができるように改善
- ふれあいセンターからの帰りには、道の駅に30分立ち寄る
- 金融機関や役場で用事をすませ、町内のお店でお買い物をした後、ふれあいセンターから乗車して道の駅で買い物することが可能に
- 70歳以上が対象

施策⑦ 災害時の受け入れ体制づくり



取組の方向性

- 道の駅エリア内の各施設において災害時の受入を想定して、必要な防災機能を確保する。
- 避難生活に対応できる備蓄を行う。
- 災害時に防災拠点としての機能できるよう、各施設間の連絡体制・受け入れ体制を構築する。

計画の内容

- 災害時の役割分担と防災機能強化
- 食料及び生活必需品等の備蓄
- 連絡体制等の構築

今年度の取り組み

○防災機能の強化

- 住民説明会の開催
- 事業説明会の開催
- 用地関係調査実施



▲住民説明会の様子

住民説明会

- 横浜町在住の町民の皆様を対象
- H道の駅「よこはま」周辺を地方創生拠点とした産業振興・地域福祉・防災に関する取組や休憩施設としての整備内容について説明
- 町民21名が参加

事業説明会

- 道の駅よこはま地方創生拠点整備に関わる地権者及びその隣接者を対象
- 上記事業の必要性、整備方針、整備内容、用地補償の流れについて説明
- 関係者19名が参加

事業内容 道の駅よこはまエリア地方創生拠点のハード整備イメージ



○事業の概要

- ① 駐車場拡幅
- ② 休憩施設、トイレ
- ③ 防災除雪ステーション
- ④ 非常用電源設備
- ⑤ 防災備蓄倉庫

H29年度の取り組み予定

- 防災機能強化（各種調査・用地買収）
- 連絡体制等の構築（関係者と協議開始）

施策⑧ 防災訓練やPR活動を通じた防災意識の醸成

取組の方向性

- 災害時に地域が適切な対応ができるよう、防災訓練や意識啓発を行う。

計画の内容

- 道の駅エリアを活用した防災訓練
- 防災に関する意識啓発



今年度の取り組み

○防災訓練の実施

- 旧南部小学校グラウンドにおいて防災訓練を実施



横浜町役場で初動訓練

- 陸奥湾を震源とする地震を想定
- 自主防災組織や自衛隊、警察など13団体500人が参加



旧南部小学校校庭で避難訓練、消火訓練

- 消防団消火訓練の様子
- 要援護者の搬送、ケア実施



自主防災組織の初期消火訓練

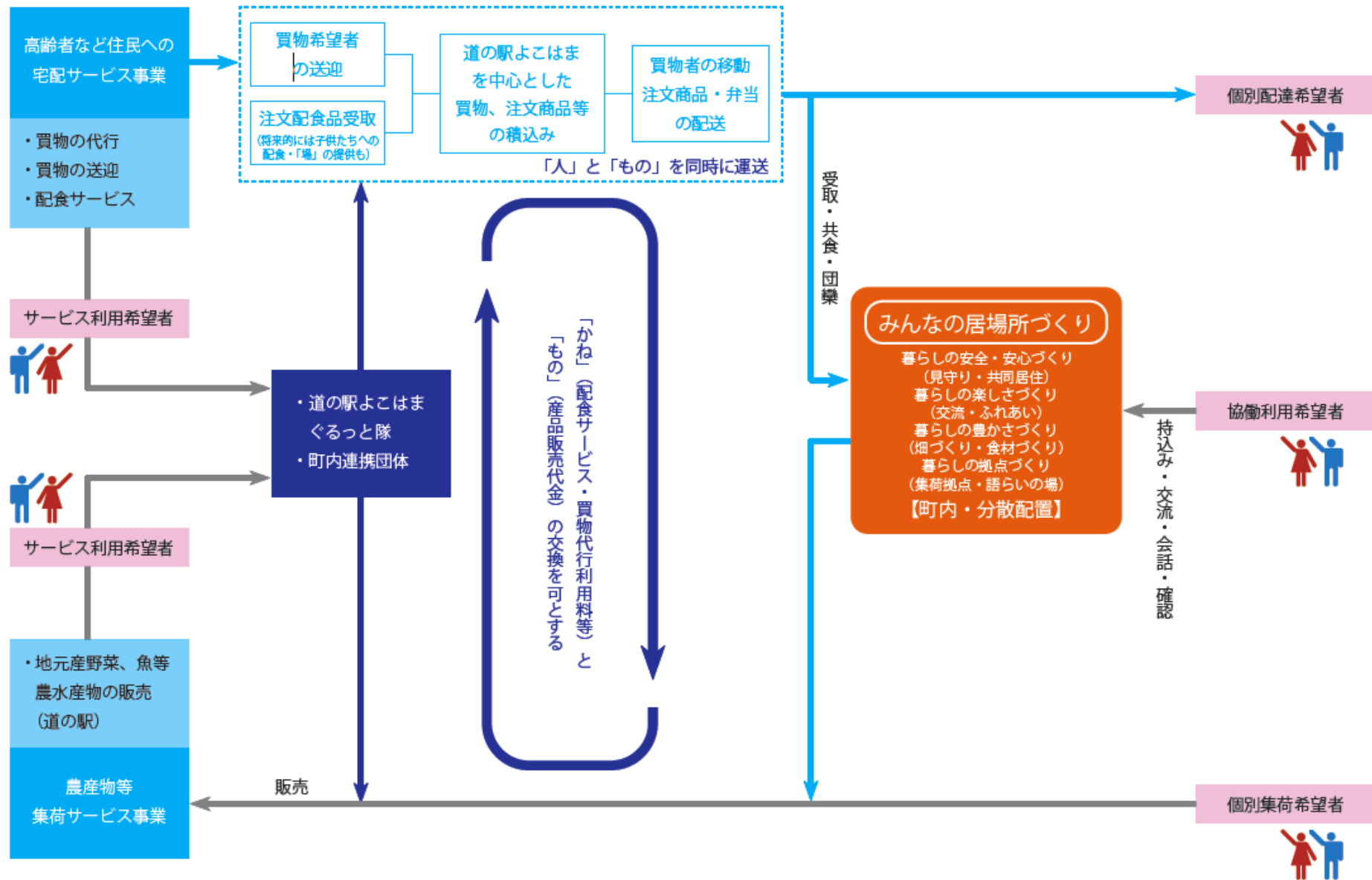
- 町民参加型訓練の様子
- 火元への上手な消火法訓練を行った

H29年度の取り組み予定

- 防災訓練（旧有畑小で実施）

道の駅よこはまエリア地方創生基本計画が目指すものは…

道の駅よこはま 宅配・農産物集荷サービス実施計画書策定及びコーディネート業務 全体構図（案）



ぐるっと隊、お邪魔します!!

松栄町内会 ぐるっと隊説明会 2017. 02.11 午前10時30分～12時

健康福祉課開催の「支え合いの地域づくり」創出のために松栄からの手揚げにより2月11日(土)午前10時30分より集会場に町内女性15人が集まった。町内会長の奥さん西浜いづ子さん、役場職員七戸景子が先頭になって人集めをしてくれたようで初めて、先立ちの西浜さんよりあいさつ、紹介を受けた後、支え合い地域づくり、道の駅エリア計画・ぐるっと隊の活動趣旨の説明をしております。

横浜町の抱えている課題、少子高齢化、人口減少、買い物難民、高齢者の一人暮らし、高齢夫婦等に対して、一つの手法として温泉バスの延伸(JA、道の駅、銀行前等)による交通手段確保、道の駅買い物や元気なお年寄りには庭先で採った野菜を道の駅に出荷してワンコイン、ツーコインを稼いで年金+αと多少なりとも所得を増やすと共に生きがい、役割として捉えて外へでる。冬場は、共同生活(昼だけでも)、気の合った者同士が集まって、ゲームをやったり、ゆったりとした話をしたり、昼にはジャガイモを煮て漬物を食べる。そして、のど自慢をみて昼寝をする。そんな、時間の過ごし方も享受するに値する。等々話して、ぐるっと隊からの一言コメントをもらい、小さな小さな移動販売のコーナーの開設。皆さん、ニンジンから御餅、おこわ、パンなどが売れていました。



見て買い物は、楽しそう!「いらしゃいませ」

支え合いの地域づくり/町ごとぐるっと



声掛けしてくれる先立ちの人がキーマン、西浜さんサンキューです。

おばちゃんと一緒に来た子はゲーム



手作り焼きそば、みんなで食べればGOOD!!

- ・一人暮らし、車が無い、歩くことが大変
- ・温泉バス利用して買い物している
- ・自分のできることをやりたい、ポケ防止
- ・町内でも集まる機会が無い
- ・この様な集いが定期的にほしい
- ・少額でも収入があれば楽しい
- ・町内に娘がいると良いが嫁では…
- ・70歳だと若い、みんな80歳代で歩く
- ・自分から心を開いて話さないダメ
- ・松栄までの道路が凸凹、補修してほしい
- ・北地区の道路整備は進んでいるが
- ・野菜を出したいが会費があるので
- ・みんな少量ずつ野菜作っているの、みんなの分をまとめて集荷して小銭に
- ・農閑期、冬場だけでも集まる機会がほしい

吹越老人クラブ情報交換 平成29年1月26日(木)10:00～

当日ほのぼの協力の笹野様より吹越改善センターへのお声を掛けて頂きぐるっと隊の杉山キョエ、杉山フサ子の二人で足を運んでみました。まず最初に驚いた事は皆さんそれぞれ生活してとても良い雰囲気でも和やかに各自ゲームを楽しんでいました。各6～7人で4グループに分かれ総勢30数名の参加者有りトランプや昔の花札を声を出しながら楽しんでいました。又その中の1グループは参加者の昼食作りで今日は「どんな料理かな」とこれまた皆さんの楽しみの一つだとおっしゃっていました。



月に3回程集まり1月は2回、3月はひな祭りとお賑やかしているそうです。又、元保健師の沢谷幸子さんも来ていて国で定めている65才以上の人の受ける肺炎球菌ワクチンや風邪に付いて色々説明をして下さり熱心に聞き入っていました。笹野さんに付いては足(車)のない方々を迎えに出てくれまことに「ほのぼの」協力員と言う自覚をしっかりと持っている様に見受けられ体の許す限り頑張りたいとの事。頭が下がる思いです。ぐるっと隊のみならず皆さんで協力をしながら街の人達の手助けをしっかりとやりたいと思いました。今までのお世話になった分を何かしらの形で恩返ししたいものです。

